

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100875		
法人名	(有)九州松栄産業		
事業所名	黒髪しょうぶ苑 グループホーム		
所在地	熊本市中央区黒髪5丁目4番30号		
自己評価作成日	平成24年9月10日	評価結果市町村受理日	平成24年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.fukushi-kumamoto.or.jp/smst_mnt/pub/default.asp?c_id=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成24年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

洗面台・クローゼット付の広い居室で思い思いに過ごされ、散歩や買い物、他のご利用者と一緒に体操やレクレーションに参加されたり、洗濯物たみや掃除機かけなど日々の動きの中で生活リハビリを行い、体力の現状維持を図っている。
街に近いわりに緑に囲まれ静かな環境であるのに加え、周囲に住宅地や熊本大学があり子供達や若者達との接点が増えてきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中に老人ホームやデイサービス、小規模多機能ホーム等の福祉が集中する施設に隣接したグループホームでは、合同での行事開催はボランティアや地域住民との交流として日々の生活に張り合いを持たせている。管理者の異動に伴い職員間のコミュニケーションの強化や、自信あふれる活気のある明るい環境作りを目標とした研修等質を求めた人材育成に取り組んでいる。その成果は一人ひとりの特性や趣味に注視したケアとなり、自由な散歩やダンス等の個別支援や、玄米にぎにぎ体操等により身体機能維持や、エプロンがけでの配膳やごみ出し係り等役割のある生活は和やかな表情を引き出し自信回復に繋げている。今後も立地条件を活かしながら、地域に密着したホームとしての活躍に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼で読み合わせをしている。理念に基づき、その人らしく自己決定の基本生活を送れるよう支援している。また、グループホームの理念としてカンファレンスを行いながらケアの統一を図っている。	理念をもとに、全職員で今期の目標を立て、専門職としてのケア向上や意識の統一を図っている。ミーティング時の個別ケアの検討やケア統一方法を話し合い、ホーム理念の実現に取り組んでいる。	各ユニット毎の介護理念や今期の目標等を掲示したり、理念を振り返る機会を作り、更なる職員の意識向上へと繋げていただきたい。また、職員のケア姿勢等を開示することで家族等への啓発の一環とされることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や苑の行事へ招待したり、買物や散歩の時に挨拶を交わしたりしている。	職員は散歩時の挨拶に努め、地区の運動会や神社の祭りに出かけ地域住民との交流を図っている。施設の夏祭りにはチラシのポスティング等により、子どもたちや近隣住民・ボランティア等多くの参加を得ている。隣接する支援学校との相互交流や子ども会のラジオ体操の場として開放しており、今後、更に子ども会との交流を行う意向である。	賀寿祝いにファッションショー等が企画されており、今後も地域との接点を増やし、この施設の存在の意義や役割を認識してもらえような工夫や積極的は働きかけにより、地域住民の気軽に立ち寄れる場所となり、入居者の日常生活に生かされることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に行っている勉強会や研修・日々の積み重ねをふまえ、運営推進会議などを通して発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回奇数月に開催し、現状報告や課題、取り組みなどを報告し意見をいただいている。	老人クラブ会長や自治会長、民生委員、包括支援センター等からの参加により2ヶ月毎に開催している。資料をもとに活動や入退院・予定等を報告し、意見交換を行い、委員からの地域の情報(行事等)をサービス向上に反映させている。	日程上から家族の参加は難しいようであるが、案内状により全家族への参加依頼を検討いただきたい。また、提案事項の進捗状況等の説明や議事録の記載方法を検討し、更に次のステップに繋がられることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターより参加されており助言をいただいている。分からない事があった時は市役所の担当の方に連絡し、相談に乗っていただいている。	運営推進会議参加時の包括支援センター職員による地域情報の発信や、区制となり書類変更等の相談、介護相談員の訪問時の報告書をもとに全職員で話し合いケアサービスに反映させる等協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵で囲ってしまう事も拘束にあたりと理解している。日常的な施錠や身体拘束をしないように心掛けている。	勉強会により、全員が身体拘束及び虐待の弊害を再認識している。管理者はミーティング時やスピーチロック・言葉使い等気付いたときにはその場で指導している。外出傾向に駐車場周辺を散歩したり、「歩きます」と職員に一声かけて散歩される方等抑圧感のない自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑での勉強会や研修などで学んでいる。日々、入浴時にボディチェックを行ったり、表情の変化などに注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会があったが、現在までに活用されている方がおられないこともあり、話し合い、活用するには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はわかりやすい言葉で説明するように心掛けている。また、疑問点や不明な点がないか伺うように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しており、気兼ねなく意見を伺えるようにしている。また、面会や家族会の時に現状報告をしたり、要望を伺ったりしている。担当を設けており、ご家族と密に連絡を取るよう努めている。	玄関先には意見箱を設置しているが利用は無く、管理者は家族の訪問時に声をかけ要望等を聞き取りしている。また、担当制として家族との連絡を密に行い、申し送りノート等により共有化を図っている。家族会も問題定義の場とし、担当職員とのグループ討議による思いや要望等の聴集の他、家族同士のコミュニケーションの場として活かされている。	今後も家族の要望や意見等は記録として残し、発生要因を探り、課題を全員で検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで出た意見や個々の意見は各委員会やリーダー会議にかけたり、苑長に報告するようにしている。	各フロアー会議や合同ミーティング等に出た意見や提案を委員会やリーダー会議で検討している。管理者は日々ケアに入り、個別に話合ったり、その場にいる職員と話し合い、申し送りノートを通じて情報を共有している。また、スタッフ間のコミュニケーションの強化と18名の入居者全員の状況を把握する目的で、月単位での職員の入替えを検討中である。施設長もホームを訪れ、入居者や職員に声をかけたり、職員も個々の目標に真摯に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心ができるような苑内研修を行っている。提案に対しては検討しやりがいや達成感を感じてもらえるようにしている。今年は賃金の改正やベースアップがあっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内では月1回の勉強会とその時に応じたスキルアップ勉強会を行っている。苑外の研修にもできるだけ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会に参加しており、連絡を取り合ったりしている。これから施設体験をさせてもらいたいと思っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずはご家族やご本人の要望や不安などを伺い、ご本人の状態を把握し、全職員で共有するようにしている。細やかにコミュニケーションをとりながら不安を解消し、安心できるようななじみの関係を作っていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず自宅に訪問し、ご家族の話を伺い入居後に困っていることや不安なことを解消できる体制作りに努めている。また、要望や意見など何でも気軽に話ができるような雰囲気づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは新しい環境に慣れ、安心して安全に生活できる事が大切だと思う。そして徐々にその方に必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや片づけなど一緒に行うようにしている。また、食事の配膳やゴミ捨てなど手伝っていただくことで助かっていると伝え、お互いに協力していくような形をとるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時には、ご利用者の状態の報告をしたり、ご家族の思いを伺ったりしながら信頼関係を築き、協力しながらご利用者を支援していきたいと思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの行きつけの美容院に行かれたり、手紙のやり取りをされていた方には手紙を書いていただくように声をかけたりしている。	家族や親類等の訪問時には居室でゆっくり過ごしてもらい、遠方の親類の帰省に合わせて自宅に帰る方、家族との外食等馴染みの関係が途切れないよう支援している。家族との手紙のやりとりや、選挙の支援等社会性の継続も視野に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士、車椅子を押ししたり、下膳を手伝ったりされている。ご利用者が孤独感を感じないように一人ひとりの発語や表情に注意し、ご利用者同士一緒にレクリエーションを楽しめるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族でも悩みや困ったことがあれば遠慮なく相談に来ていただけるような環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で話をしながら希望を伺ったり、本人の思いをくみ取るようにしている。意思疎通の難しい方は家族に話を伺ったり、本人の表情や行動の変化に気をつけるようにしている。	日々のかかわりの中で希望を聞いたり、会話からの思いの察知している。難聴の利用者との筆談や家族から情報をもとにプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやご家族・ご本人の話を伺い、把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の排泄確認や朝と15時のバイタル測定等により、健康管理に注意し日中・夜間を通し、申し送りにより情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでカンファレンスを行い、全職員の意見を聞きながらモニタリングを行っている。状態の変化をふまえ、現状に即した介護計画であるよう心掛けている。	家族の訪問時に意向などを把握し、毎月のカンファレンスにより個々の状況を把握し、モニタリング(担当職員)を行い、リーダーがプランを見直している。ケア記録への介護計画書の添付はプランの確認や共有化となり、日々のケアに生かされ、介護保険更新時や入退院時の見直し等現状に即したプランとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者毎の記録を行い、普段と違った様子や発語などを記録する様にしている。また、対応に対する反応も残すようにしている。介護計画の見直し等は担当を中心にカンファレンスを行い実行している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念にとらわれず、その時に必要なニーズに対応していくよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、一人ひとりの喜びや楽しみ方を模索しながら、ご利用者が喜びや楽しみを持てる様支援するよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全ご利用者が訪問診療を受けられている。緊急時はもとより日常の健康管理に関しても主治医やご家族と連絡を密にとり、主治医とご家族の橋渡しの役割に努めている。	本人・家族の希望に添ったかかりつけ医とし、入居時に協力医の説明を行っている。現在は複数の医療機関からの訪問診療となっており、受診前の状態報告や血圧記録を主治医と共有し、変化時・緊急時を連携している。状態変化時は家族と連絡を取り合い、適切な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調の変化等気づきがあれば看護師はもちろん他の職員にも伝え、情報を共有し早急な対応が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	全職員ができるだけお見舞いに行くことで、ご利用者に安心していただき、主治医や担当の看護師と連携をとり、状況の把握に努め、早期退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの説明をしているが、実際にはその時には現実的にとられていない様に思う。しかしご家族にとっても大切なことだと思うので、職員の意識の統一を図り、ご家族や主治医とも話し合いながら万全の態勢で臨めるようにしていく。	医療連携体制や重度化・看取りに関する指針を説明し、同意書を交わしている。今まではターミナルケアは行われていないが、本人・家族の希望を踏まえホームで可能な限りの支援個別の話し合いを重ねていく意向である。	「このホームで最期まで」と希望される家族もおられることから、介護・看護等更なるケア向上のための勉強会を進めていただきたい。また、家族との話し合いを重ね、少しでも長くこのホームでの生活が継続されることを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は主治医に連絡を取れるようにしている。 急変や事故に対する対応については不安な部分はあるが、定期的に行なっている勉強会に参加することで全員対応出来るようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は定期的に行なっており10月にはご利用者を含めた避難訓練を行う予定である。 災害時には当苑が避難場所として大きな役割を担うのではないかと。	定期的な防災訓練を実施し、10月に予定している避難訓練は夜間を想定しホーム2階を出火元に消防署と共に行う計画である。消防設備や通報システムを整備し、コンセントの埃点検等の自主点検が実施されている。	地域の避難場所等防災の拠点としての貢献も期待できる施設であり、運営推進会議等を通じた相互協力の話し合い等により地域への啓発に取り組んでいただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬愛、尊敬の念を持ち、声かけや関わりを持つようにしている。	本人の気持ちに「寄り添い・敬い・慈しみ」をユニットの理念に掲げ、声かけのトーンに配慮した声かけや傾聴に努め、管理者は何気なく出てしまう言葉については今後も注意を払いたいとしている。入浴時の同性介助やトイレ誘導時のさりげない対応等一人ひとりの人格を尊重した支援に取り組んでいる。	「自信あふれた活気のある明るい環境作りが出来る事」を目標とした研修や周囲からも好感を持たれる対応方法等職員教育が行われており、介護理念の一節「寄り添い・敬い・慈しみ」の実践に大いに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で本人の希望や思いを聞くように心掛けている。無理強いせず本人の決定を促すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて本人の希望を伺い、希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時のお化粧品や洋服選びなどを一緒に手伝っている。時にはマニキュアを塗ったりされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行っている。また、食べられない食材がある時は別の食材を使ったり、ミキサーや刻み、トロミ付きなど個人に合わせて対応している。食事は職員も一緒に同じテーブルで食べている。	併設事業所と合同で栄養課で調理され、ホームでは朝食を作り、昼・夕はご飯を炊いている。入居者は運ばれた食事を注ぎ分け配膳したり、米をといだりどできる事を手伝い、時にはお好み焼きやどら焼き等のおやつ作りを行っている。嚥下状態に合わせた形態やおにぎりでの対応等個々に応じ、レストランや回転寿司等外食等も取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日チェックしており、毎月BMIを出し食事量を調節している。また、血液検査により不足している栄養の補給に努めている。 栄養士とも情報を共有して各人がおいしく摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをされた後、職員がチェックケアを行っている。訪問歯科医院と連携をとり早期対応がとれるよう心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを理解し対応している。昼夜ともにトイレでの排泄を心掛けている。	排泄チェックでパターンを把握し、昼間は全員トイレでの排泄を支援している。又、下着や排泄用品も個々に合わせ、立位訓練等で下肢筋力の維持に努めている。また職員は車椅子から便座への移乗の仕方を話し合いケア統一を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事やバランスのとれた食事を提供し、散歩や体操などを始め、体を動かすよう支援している。慢性の便秘の方には主治医と相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間は出来るだけ本人の希望に合わせるようにしている。入浴中の時間も体調をみながらゆっくりと入浴していただいている。	時間や一番風呂等入居者の希望に合わせて、午前・午後と支援している。二つの連なった浴槽を備えた浴室で、冬場は室温に配慮しゆっくり寛いだ入浴となるように努め、毎回お湯の入れ替えを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の思いに任せている(居室におられたり、ホールでテレビを見られたり)が室内の温度や湿度には注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があればその都度、記録や申し送りノートに記入し、周知徹底を図っている。使用中の薬については専用のファイルを作り、いつでも見ることが出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりやりたい事、好きな事が違う為、その人に合わせた支援をするよう心掛けている。 (食事の配膳、洗濯物たたみ、散歩、買物など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑の近くにドラッグストアが出来たので散歩を兼ね、日用品をご利用者と一緒に買物に出掛けている。遠出や外食は月1回全員で出掛けている。 個人の希望を叶えていけるようにしていきたいと思っている。また、家族との外出や外食も勧めている。	隣接の支援学校やホーム周辺の散歩、買い物や郵便局まで出かける等日常的に戸外に出る機会を持っている。又、ユニット毎に毎月外出行事を計画し、植物園や買い物・外食等の外出の写真が玄関先のアルバムに綴られている。家族の協力で帰宅したり、外食に出かけており、今後、個別の外出への取り組みを強化していきたいとしている。	外出行事には出来る限り全員で出かけるようにしており、個別外出についてボランティア等の活用も視野に検討いただき、入居者の楽しみの外出が継続される事に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力と家族との話し合いで支援している。購入したいものがあれば職員と一緒に買物に行ったりしている。外出や外食の時も家族の理解により使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご本人の携帯電話や苑の電話を使用し、連絡をとっている。また、遠くの家族に近況報告や本人の直筆の手紙や写真をやりとりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ち良く過ごしていただく為に明るさや温度、湿度に注意している。季節の草花を飾ったり、季節感のあるカレンダーを作成したりしている。また、席やテレビの音量などにも気を配っている。	ベランダから日差しが降り注ぐ明るいリビングはソファや畳のスペースで寛いだり、対面式の台所に立つ職員と会話で楽しんでいる。ユニットごとに入居者に合わせたテーブル配置や騒音も無く、草花による季節感や温湿度管理を徹底した環境作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブルとは別にホールにソファが置いてあるが、そこも自然と居場所が決まっており、隣同士で座っている事で落ち着かれる雰囲気ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物、思い出のある物を持ってきていただくようお願いしている。写真を飾ったり、物の配置など本人の希望に添うようにしている。	洗面台と収納スペースが備え付けられ、ベッドも本人が使いやすいものを持ち込んでいる。タンスや仏壇・ソファ・テレビ等の多くの馴染みの品物や家族写真・アルバム・着物等の持ち込みで一人ひとりのこだわりのある部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お知らせ用のボードを活用し、行事の案内をしたり、トイレも表示をつけ分かりやすくし、場所によっては“使用中” “空” の札をつけるようにしている。本館にも行きたい時に行けるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼で読み合わせをしている。理念に基づき、その人らしく自己決定の基本生活を送れるよう支援している。また、グループホームの理念としてカンファレンスを行いながらケアの統一を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や苑の行事へ招待したり、買物や散歩の時に挨拶を交わしたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に行っている勉強会や研修・日々の積み重ねをふまえ、運営推進会議などを通して発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かして	2か月に1回奇数月に開催し、現状報告や課題、取り組みなどを報告し意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターより参加されており助言をいただいている。分からない事があった時は市役所の担当の方に連絡し、相談に乗っていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵で困ってしまう事も拘束にあたると理解している。日常的な施錠や身体拘束をしないように心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑での勉強会や研修などで学んでいる。日々、入浴時にボディチェックを行ったり、表情の変化などに注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会があったが、現在までに活用されている方がおられないこともあり、話し合い、活用するには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はわかりやすい言葉で説明するように心掛けている。また、疑問点や不明な点がないか伺うように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しており、気兼ねなく意見を伺えるようにしている。また、面会や家族会の時に現状報告をしたり、要望を伺ったりしている。担当を設けており、ご家族と密に連絡を取るよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで出た意見や個々の意見は各委員会やリーダー会議にかけたり、苑長に報告するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心ができるような苑内研修を行っている。提案に対しては検討しやりがいや達成感を感じてもらえるようにしている。今年は賃金の改正やベースアップがあっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内では月1回の勉強会とその時に応じたスキルアップ勉強会を行っている。 苑外の研修にもできるだけ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会に参加しており、連絡を取り合ったりしている。 これから施設体験をさせてもらいたいと思っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係	まずはご家族やご本人の要望や不安などを		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	伺い、ご本人の状態を把握し、全職員で共有するようにしている。細やかにコミュニケーションをとりながら不安を解消し、安心できるようななじみの関係を作っていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず自宅に訪問し、ご家族の話を伺い入居後に困っていることや不安なことを解消できる体制作りに努めている。 また、要望や意見など何でも気軽に話ができるような雰囲気づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは新しい環境に慣れ、安心して安全に生活できる事が大切だと思う。そして徐々にその方に必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや片づけなど一緒に行うようにしている。また、食事の配膳やゴミ捨てなど手伝っていただくことで助かっていると伝え、お互いに協力していくような形をとるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時には、ご利用者の状態の報告をしたり、ご家族の思いを伺ったりしながら信頼関係を築き、協力しながらご利用者を支援していきたいと思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの行きつけの美容院に行かれたり、手紙のやり取りをされていた方には手紙を書いていただくように声をかけたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士、車椅子を押ししたり、下膳を手伝ったりされている。ご利用者が孤独感を感じないように一人ひとりの発語や表情に注意し、ご利用者同士一緒にレクリエーションを楽しめるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族でも悩みや困ったことがあれば遠慮なく相談に来ていただけるような環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握	日々の生活の中で話をしながら希望を伺っ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	たり、本人の思いをくみ取るようにしている。意思疎通の難しい方は家族に話を伺ったり、本人の表情や行動の変化に気をつけるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやご家族・ご本人の話を伺い、把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の排泄確認や朝と15時のバイタル測定等により、健康管理に注意し日中・夜間を通し、申し送りにより情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでカンファレンスを行い、全職員の意見を聞きながらモニタリングを行っている。状態の変化をふまえ、現状に即した介護計画であるよう心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者毎の記録を行い、普段と違った様子や発語などを記録する様にしている。また、対応に対する反応も残すようにしている。介護計画の見直し等は担当を中心にカンファレンスを行い実行している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念にとらわれず、その時に必要なニーズに対応していくよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、一人ひとりの喜びや楽しみ方を模索しながら、ご利用者が喜びや楽しみを持てる様支援するよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全ご利用者が訪問診療を受けられている。緊急時はもとより日常の健康管理に関しても主治医やご家族と連絡を密にとり、主治医とご家族の橋渡しの役割に努めている。		
31		○看護職との協働	ご利用者の体調の変化等気づきがあれば		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調の変化等気づきかめれば看護師はもちろん他の職員にも伝え、情報を共有し早急な対応が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	全職員ができるだけお見舞いに行くことで、ご利用者に安心していただき、主治医や担当の看護師と連携をとり、状況の把握に努め、早期退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの説明をしているが、実際にはその時には現実的にとられていない様に思う。しかしご家族にとっても大切なことだと思うので、職員の意識の統一を図り、ご家族や主治医とも話し合いながら万全の態勢で臨めるようにしていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は主治医に連絡を取れるようにしている。 急変や事故に対しての対応については不安な部分はあるが、定期的に行なっている勉強会に参加することで全員対応出来るようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は定期的に行なっており10月にはご利用者を含めた避難訓練を行う予定である。 災害時には当苑が避難場所として大きな役割を担うのではないかと。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬愛、尊敬の念を持ち、声かけや関わりを持つようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で本人の希望や思いを聞くように心掛けている。無理強いせず本人の決定を促すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて本人の希望を伺い、希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時のお化粧品や洋服選びなどを一緒に手伝っている。時にはマニキュアを塗ったりされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行っている。また、食べられない食材がある時は別の食材を使ったり、ミキサーや刻み、トロミ付きなど個人に合わせて対応している。 食事は職員も一緒に同じテーブルで食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日チェックしており、毎月BMIを出し食事量を調節している。また、血液検査により不足している栄養の補給に努めている。 栄養士とも情報を共有して各人がおいしく摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをされた後、職員がチェックケアを行っている。 訪問歯科医院と連携をとり早期対応がとれるよう心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを理解し対応している。昼夜ともにトイレでの排泄を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事やバランスのとれた食事を提供し、散歩や体操などを始め、体を動かすよう支援している。慢性の便秘の方には主治医と相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は出来るだけ本人の希望に合わせるようにしている。 入浴中の時間も体調をみながらゆっくりと入っていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の思いに任せている(居室におられたり、ホールでテレビを見られたり)が室内の温度や湿度には注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があればその都度、記録や申し送りノートに記入し、周知徹底を図っている。使用中の薬については専用のファイルを作り、いつでも見ることが出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりやりたい事、好きな事が違う為、その人に合わせた支援をするよう心掛けています。 (食事の配膳、洗濯物たたみ、散歩、買物など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑の近くにドラッグストアが出来たので散歩を兼ね、日用品をご利用者と一緒にお買い物に出掛けている。遠出や外食は月1回全員で出掛けている。 個人の希望を叶えていけるようにしていきたいと思っている。また、家族との外出や外食も勧めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力と家族との話し合いで支援している。 購入したいものがあれば職員と一緒に買物に行ったりしている。 外出や外食の時も家族の理解により使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご本人の携帯電話や苑の電話を使用し、連絡をとっている。また、遠くの家族に近況報告や本人の直筆の手紙や写真をやりとりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり	毎時+自ノ温ゲ! 7-11+ナノカノ一明ズナメヨ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ち良く過ごしていたために明るさや温度、湿度に注意している。 季節の草花を飾ったり、季節感のあるカレンダーを作成したりしている。また、席やテレビの音量などにも気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブルとは別にホールにソファが置いてあるが、そこも自然と居場所が決まっており、隣同士で座っている事で落ち着かれる雰囲気ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物、思い出のある物を持ってきていただくようお願いしている。 写真を飾ったり、物の配置など本人の希望に添うようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お知らせ用のボードを活用し、行事の案内をしたり、トイレも表示をつけ分かりやすくし、場所によっては“使用中”、“空”の札をつけるようにしている。 本館にも行きたい時に行けるよう支援している。		